

こくしのたち

# 国司館復元模型



## ■古代武蔵国府の国司館10分の1復元模型

国司館の歴史的価値をわかりやすくお伝えするために、1/10の模型を制作しました。

主殿と脇殿の前の広場は前庭ぜんていといい、様々な儀式等が行われました。そのため、前庭には国司等の人形を置いています。

●**主殿** 奈良の都からここ武蔵国府に赴任してきた国司が在任期間中に暮らした館の中心施設です。国司の生活の場である

とともに、様々な儀式や饗宴（宴）にも使われました。四面に廂ひましが付いており、格式の高い様式となっています。

●**脇殿** 国司とその従者などが仕事や生活で使っていた建物で、様々な儀式や饗宴（宴）にも使われました。

●**付属建物** 国司などが使用する生活用具、儀式や饗宴で使う備品などを保管した建物と考えられます。

●**国司等人形** 国司の着任の儀式を再現しています。主殿前中央に、国司が立っています。こちらを向いているのが筆頭国

司の「守」かみ（濃いオレンジ色）、その前に後ろ向きで立っているのが2等官「介」すけ（明るいオレンジ色）、3等官「掾」じょう（濃い

緑）、4等官「目」さかん（薄い緑）です。女官や兵士なども居ます。

●**松の木** 古代の都や国府では、松が好まれました。万葉集にも松がたくさん詠まれています。

●**竪穴建物跡** 営繕等の作業場として建てられました。場所を平面で表示しています。

## ■国司館 10分の1 復元模型の制作について

### 1 発掘調査成果や建築史学の比較検討結果に基づく復元

模型の復元にあたっては、発掘調査の成果と、その再検証を踏まえ行いました。また、国内各地の発掘事例や平城京長屋王邸などの復元事例を調査研究したうえで、府中市文化財保護審議会委員で建築史学を専門とする藤井恵介氏（東京大学名誉教授）の指導のもと、同じく建築史学を専門とし、府中市郷土の森博物館での武蔵国庁復元模型制作の実績もある渡邊保弘氏（株式会社文化財工学研究所代表取締役）に、復元案の検討及び設計図を作成いただきました。その結果を検討し、府中市が制作したものです。

復元対象は、主殿、脇殿、付属建物の三棟の掘立柱建物としました。また、竪穴建物は、同時期に建てられたものの、きわめて短期間の存続で、作業場的な役割だったと考えられるので、復元せず、その範囲を表示することとしました。

なお、10分の1の古代国府の国司館復元模型としては、国内で唯一です。

### 2 復元模型制作の基本方針

- ①対象とした時代は、国司館の特徴をもっともよく現している奈良時代前期（8世紀前半）としました。
- ②考古学の発掘調査成果や建築史学の比較検討などを経て、学術的根拠に基づいた復元を行いました。
- ③復元模型の素材は、FRPです。（※Fiber Reinforced Plasticsの略で、繊維強化されたプラスチックのこと）

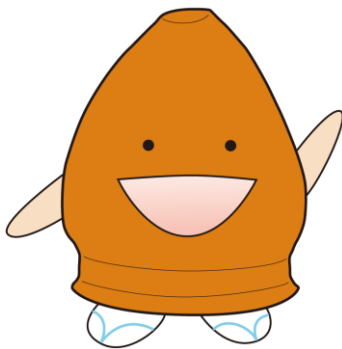
### 3 国司館で行われていたこと

ここで復元した8世紀代の国司館は、奈良の都から武蔵国府に赴任してきた国司の宿泊地＝生活の場でした。生活の場であるとともに、一年を通して、接待（饗宴）や歌会をはじめ、様々な儀式や宴が行われていました。都出身の国司の知識や教養に基づく最先端の文化が、ここ武蔵国の国府で花開いていたのです。

なお、武蔵国府スコープやタブレットで見られるVR映像のなかでは、国司館の説明やそこで行われていた蹴鞠のシーン、多摩川を題材とした歌会とその宴のシーンなどが再現されています。ぜひご覧ください。

この史跡広場は、府中市の歴史を象徴する国指定の史跡（文化財）です。

復元模型に登ったり、さわらないようにしてください。



府中市文化スポーツ部ふるさと文化財課（平成30年(2018)11月発行）  
〒183-0023 東京都府中市宮町3-1 府中市立ふるさと府中歴史館3階  
<TEL> 042-335-4487（直通） <FAX> 042-360-4401  
<Eメール> bunkazai01@city.fuchu.tokyo.jp